

斑禿性脱毛症
(alopecia pityrodes)

MEMO 

4. トリコチロマニア (抜毛症, 抜毛癖) trichotillomania ★

自らの手で毛髪を引き抜いてしまうために脱毛を生じるものである。学童期に好発する。患者は抜毛を否定、ないし自覚していない場合があるため、他の脱毛症との鑑別を要する。境界不明瞭な不整形の脱毛がみられ、不完全な脱毛斑となる。病巣内に短く切れた毛が残存する一方、新生毛もある。手の届く範囲に病巣があり、利き手側の前頭部や側頭部に多い。患者の心理的問題や性格、家庭環境を背景にしているため、治療に際しては精神神経科医などと協力する必要がある。

5. 瘢痕性脱毛症 alopecia cicatricans

外傷、熱傷、放射線などによる瘢痕形成の結果、毛包が不可逆的に破壊されて脱毛をきたしたものである。DLE、剣創状強皮症などの疾患でも生じうる。治療には外科的再建を要する。

D. 爪甲の変化 disorders of nails

a. 爪甲の色調の変化 color change of nail plates

1. メラニン色 (黒色) の爪 melanonychia

爪母メラノサイトの増加によるもの (母斑細胞母斑, 炎症, 圧迫によるメラノサイト活性化など), 悪性黒色腫^{アジソン}, Addison 病, 薬剤性 (5-FU, プレオマイシン, ヒドロキシウレアなど) などの原因が考えられる。爪外の皮膚 (爪郭部など) まで黒色病変が及んでいる場合を Hutchinson 徴候^{ハッチンソン}といい、悪性黒色腫の可能性が高い (図 19.15)。爪下出血でも黒色調になるが、多くはダーモスコピーで鑑別可能である。また、細く縦走する数 mm 大の線状出血 (splinter hemorrhage) は健常人でもみられるが、遺伝性出血性毛細血管拡張症 (Osler 病)^{オスラー}や感染性心内膜炎で生じることがあり注意を要する。

2. 黄色の爪 yellow nail

爪の栄養障害や感染症、柑皮症^{かんぴ}や黄疸などによる。リンパ浮腫および慢性呼吸器疾患を合併したものを黄色爪症候群 (yellow nail syndrome) といい、D-ペニシラミン、テトラサイクリ

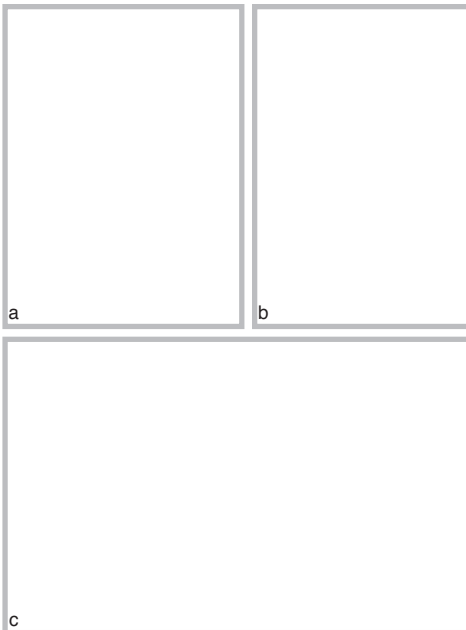


図 19.15 メラニン色 (黒色) の爪 (melanonychia)
a: 爪の色に濃淡の差があり、爪の先端部が変形する。悪性黒色腫が疑われる。b: 25 歳女性。半年前より急速に発現し、病理組織学的には malignant melanoma in situ の像を呈した。c: 爪母の母斑細胞母斑。

ンで誘発されることがある (図 19.16).

3. 緑色の爪 green nail

緑膿菌の日見感染であり, 爪白癬や爪カンジダ症を併しやす (図 19.17).

4. 白色の爪 leukonychia

点状の白斑は, 外傷などによって部分的に不全角化が起こるために生じるもので無害である (図 19.18). ネフローゼ, 肝硬変などの低アルブミン血症による Muehrcke's nail, 貧血, 強皮症, 糖尿病などの全身性疾患や砒素などの中毒, 白癬や爪甲剥離などによっても白色となる.

b. 爪の形態の異常 abnormal formation of nail

1. 時計皿爪 nail clubbing ★

ばち状指 (clubbed finger), ヒポクラテス爪 (hippocratic nail) とも呼ばれる. 爪甲が全体的に大きくなって時計ガラス状に丸く隆起し, 指趾末節が太鼓ばちのように肥大する (図 19.19). 指の末端の軟部組織にムコ多糖類が沈着するために生じる. 慢性の心肺疾患 (肺気腫, 肺癌, 気管支拡張症, 先天性心疾患), 甲状腺機能亢進症, 炎症性腸疾患などで認められる. 強皮骨膜炎 (18章 p.322 参照) の一症状として家族性に出現することもある.

2. 匙型爪 spoon nail ★

爪甲がスプーン状に陥凹し, 爪甲自体も薄くなるものである (図 19.20). 手の爪に多い. 乳幼児では生理的にみられる. 指



図 19.16 黄色の爪 (yellow nail)



図 19.17 緑色の爪 (green nail)



図 19.18 白色の爪 (leukonychia)

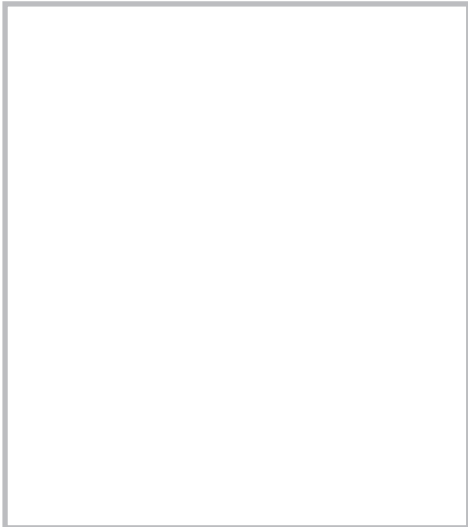


図 19.19 時計皿爪 (clubbing)

爪甲全体が時計ガラス状に丸く隆起し, 指末節が太鼓ばち状に肥大する.



図 19.20 匙型爪 (spoon nail)

図 19.21 先天性厚硬爪甲症 (pachyonychia congenita)
母親 (上) と子 (下) に生じた爪甲変形。図 19.22 点状陥凹 (pitting)
円形脱毛症の例。

先に力を掛ける仕事をしている健常人にもみられる。鉄欠乏性貧血や甲状腺疾患で生じるほか、扁平苔癬、乾癬、真菌感染、外傷、化学物質などでもみられることがある。

3. 爪甲剥離症 onycholysis

爪甲が末梢側から剥離してくる状態をいい、剥離をきたすが脱落に至ることはない。爪カンジダ症などの感染症、外傷や慢性的刺激、マニキュア、洗剤など爪甲部皮膚の炎症によるもの、甲状腺機能亢進症や末梢循環障害、薬剤などの全身的な原因によるものが存在する。

4. 爪甲脱落症 onychomadesis, nail shedding

爪甲剥離症とは逆に、爪根部から末梢側へ爪の剥離が進み、ついには脱落する。特発性のももあるが、外傷や爪囲炎、乾癬、扁平苔癬、梅毒、紅皮症などで生じることもある。爪甲横溝が著しくなった場合でも生じる。

5. 厚硬爪甲 pachyonychia

爪甲自体が厚くなるか、あるいは爪甲下の過角化で肥厚した状態である。爪甲の伸びが妨げられて分厚くなる。先天性のものはケラチン 6, 16, 17 の遺伝子の変異が原因である [先天性厚硬爪甲症 (pachyonychia congenita), 図 19.21]。分厚く彎曲した状態を爪甲鉤彎症 (onychogryphosis) といい、高齢者の母趾に好発する。

6. 爪甲縦溝 longitudinal groove

爪甲を縦に走る線条である。老人性変化の一つとしてみられることが多い。進行すると爪甲縦裂症 (onychorrhaxis) という爪甲が縦に割れやすい状態となる。外傷、湿疹、強皮症、貧血などでみられる。

7. 爪甲横溝 transversal groove

横に溝が走った状態をさし、爪母に何らかの障害が生じて、爪甲の成長が一時的に抑制された結果である。溝の幅は障害の期間を、溝の深さは障害の強さを意味する。外傷など局所的原因では侵される爪に限られるが、内因性で生じたものではすべての爪に生じる [ボー線 (Beau's lines)]。発熱性疾患、感染症、

糖尿病，薬剂，出産，亜鉛欠乏症などが原因となる。

8. 点状陥凹 nail pitting

爪甲に針でつついたような点状の凹窩が多発する。乾癬や円形脱毛症（図 19.22）で見られるほか，健常人にも生じることがある。

9. 爪甲層状分裂症 onychoschizia

爪の先端が細かく鱗状に層状分離をきたして，割れやすくなっている状態である。爪甲の水分低下によるとされ，冬季に好発する。マニキュアによることが最も多いが，SLE などの全身性疾患によっても生じうる。

10. 陥入爪 かんにゅうそう ingrown nail

爪の側縁が側爪郭に食い込み，このために側爪郭が腫脹発赤して肉芽腫様に盛り上がり，圧痛を伴う（図 19.23）。程度が強いと爪囲炎など二次感染をきたし，反応性の肉芽形成を伴う。靴による圧迫や深爪が原因となり，第1趾に好発する。白癬菌による爪の変形に続発する場合は原疾患の治療を行う。治療は外力を避け，清潔を保つのが第一であるが，難治性のものに対してはワイヤー法などの爪矯正術や外科手術が必要となる（図 19.23d）。

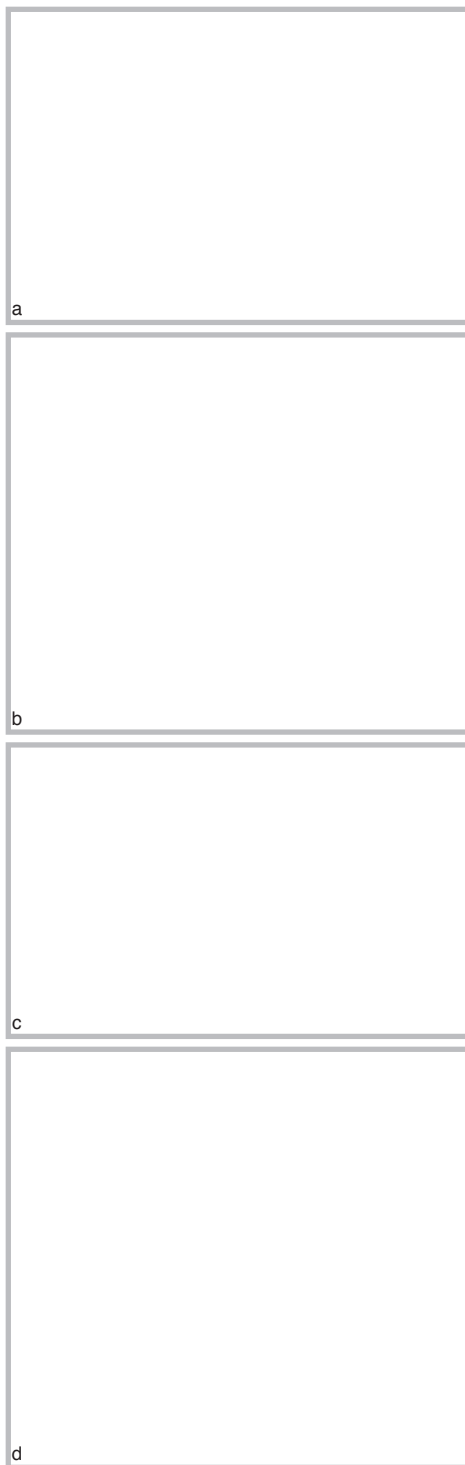


図 19.23 陥入爪 (ingrown nail)
 a: 第1足趾爪，内側が側爪郭に食い込み疼痛を伴う。
 b, c: 反応性の肉芽形成。d: 治療として爪母を含めた部分抜爪術。